
IS に変革者・・・の怠け者

紅刹那

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ISに変革者・・・の怠け者

【Nコード】

N7469Y

【作者名】

紅刹那

【あらすじ】

入学式に向かう途中電車にはねられて死んでしまった大学生がISの世界に転生するお話です。
処女作&駄文しか書けないので精進していきます。

ブローグ

(だるい・・・)

3月4日 電車の中には、周りはスーツを着ているサラリーマンや新学期だ、と言っている学生がいたりする。その中で外を眺めている18歳の青年はぼやいていた。

彼は、普段電車は使わず自電車で中学から高校まで、通学していたが今年から大学生で今スーツを着ている。彼は大学の入学式に行く途中なのだが、新たな期待に胸を含ませるとかではなく、入学式がただめんどくさいと考えていた。だって長ったらしい校長のあいさつなんて嫌だろ？

どうやって長ったらしい校長のあいさつを潰すか考えている木村きむら暁あきであった。

(どうしようかな…あ、ここで乗り換えだ)

電車から降り 階段を上がり 視覚障害者誘導用ブロックの所で
電車が来るのを待つ

(あ きたき「ドゴッ」…………え?)

突然後ろから押さて落とされる感覚におちる、そして、目を動かすと電車が猛スピードで……

ん？

辺りを見渡してみるが、そこには電車もなく駅のホームでもなく、ただ白いペンキを天井・床・壁に隙間なく塗ったような空間の中で、白い布のような服（ギリシヤの神の服のような）を着た女性がいた。そして、

「すいませんでしたあああああ————————！！！」

いきなりうるさい人だな

「すいません……」

しよぼくれた、そして心読まなかったか？

「一様神様なんで、実はこちらの不手際であなたが死んでしまったんですよ。」

へー 後ろから押されたけどあれのこと？

「はい……」

へー

「怒ってないんですか？」

怒れば生き返えさせてもらえたりするの？

「あなたの体は、グシャツつとつぶれてしまっているので不可能です…:すいません」

じゃあ、どうしようもないじゃん。連れて行かれるのは天国？地獄？

「いえ、あなたが行くのは別の世界です。こちらの不手際で死んでしまったわけですからもう一回、人生を歩んでもらいます。」

えーだるい魂消滅とかじゃねえの？

「嫌なんですか？」

だってこいつのって死亡フラグ満載な所に飛ばされるんじゃないかね？

「そうですね、そしてもう決まっていますよ。」

なーんか死亡フラグな予感

「そうですかね？インフィニット・ストラトスですよ、あなたが飛ばされる世界は。」

ISという女性しか動かない機械ができて、主人公がISを動かしてしまっただってというアニメ化された奴？

「はい」

まあ ほとんど現代社会とおなじだよな 死ぬ確率はそんな高くないかな？

「そうですね。今回こちらの不手際なんで能力や願いが5つ与えることができます。あ、今までの記憶は引き継いでいるので、あと、もうこちらで主人公と同じくIS動かせることになっていますので、かなえられる願いは4つですね。」

え？なんで動かせるの？

「え？ 先輩方は転生者が来たときに一番多い願いがこれだったので、早めにつけてしまいましたがいけませんでした？」

まあ、憧れるけどさメンドクサイことが起きそうだね…まあいいや、1つ目は開発チート 2つ目はGNDライブの入手、えーとアニメで使っていたオリジナルのやつ5つで。

「はい。3つ目は？」

3つ目は経験値急増蓄積かな？

「えーと、すみませんどういった能力ですか？」

RPGのゲームとかだと経験を積んで強くなるけど、俺の場合人の何倍の速度で経験を溜めることができ、何年たっても衰えないってところかな。

「はい、アニメとかラノベとかで見なかったので、どういう能力かわかりませんでした。」

神様もラノベとか読むんだな…

「はい！もうユニコーンとか面白くて！！主人公がなんで説明なしにユニコーン動かせるんだよとか

――
――
――
――
――
――
――
――最後に出てきたあれとか続きが早くみたいですよ！」

やっぱり趣味の話とか饒舌になったりするよね、そして長い…

「すみません。で4つ目は？」

んー 向こうについてから考えるとかだめ？

「まあ、いいです。連絡手段とか携帯に入れておいてよろしいでしょうか？」

んー 携帯手に入れたときになぜかアドレスが入っているという形でお願いできますか？

「はい、いいですよー」

ん、いろいろあんど

「いえ、では次の人生ではご迷惑かけないようにします。では」

その言葉を聞いた瞬間黒い穴がでてきてその穴に吸い込まれた

そして

「がんばりましたね、元気な男の子ですよ。」

本当に転生したよ俺

プロローグ（後書き）

誤字、脱字、感想等あればよろしくお願いします

今幼稚園児です

俺が転生してから4年たった。え？その前はないのかつて？無理だつて赤ん坊のやれることつて寝る食べる寝るぐらいしかないんだ（食べるじゃなくて飲むか？）それに作者にそんなこと出来るわけないだろ？ただでさえ面倒なのに……って作者つて何だ？まいつか。

俺の名前は前世と同じく木村 暁^{あき}だ。今は保育園児である。

で神様からもらった能力だが積極的に使つてない、使う気もない。というのも1つ目の能力開発チートは、ISができるのなら技術者でもなれば食つていけるだろうつて思ったからだし、2つ目のGNドライブは、そりゃ開発チートもらつてんだからガンダムつくつてみたいが、4歳児がそんなの持っていたらおかしいので前に父親に買ってもらつたGPS付き携帯に入っていたアドレスで神様と連絡を取り「必要になつたら届けてくれる？」とお願いしてみた。で「はい。4つ目の願いには入りませんでしんぱいしないでくださいね」といつてきた、

「話とか聞いてもらつてもいい？こつちで事情知つている人とかいないからさ」

「けっこつこつちは暇なことが多いのでいつでもいいですよ」といつてきてくれた。

そしてまだ、4つ目の願いは考えていない。

3つ目の能力の経験急増蓄積は、最初からチート能力持つていて使つたところをみられたり、ばれたりすると厄介事になりそうだから

ら、周りにいる園児たちとほぼ身体能力は同じである。

まあ、荒事が起きた時逃げられるように足は鍛えているが。

で、今木陰で寝転んでいる。だって実際年齢20歳以上のやつが4〜6歳児と一緒に遊ぶつて、気が滅入る。というわけで今日もねy」あの・・・」・・・なんだよ

side 織斑 千冬

きょうは としたのひとたちとあそんでみよう とせんせいが
いって みんなぐるーぷをつくりはじめた。わたしは たばねちゃ
んとぐるーぷになったけど ほかみんなはこっちにこようとしない

せんせいがこっちにきて「ねえ」とはなしかけてきた けどたば
ねちゃんは「うるさい」っていったでもせんせいはつづけて「あの
木の下にいること組んできてくれないかな？あの子も友達いないの、
だから友達になってあげて？」ってせんせいがいった。

だからいつもひとりでいるのかな？ おともだちがすくないのな
らすくないものどうしおともだちになれるのかな？

わたしのせいでこわがれるかもしれないけど。

side out

あーなんか二人組がこっちに来て黒髪の女の子が俺を見下ろしている

「わたしはおりむら ちふゆっていいいます。」

・・・おりむら ちふゆって織斑 千冬か？原作キャラじゃん・でも自己紹介されたら、返さんとあかんよな 俺は起き上がった

「あー木村 暁記憶の片隅にでも置いていてくれ。」

「ほらたばねチャンもあいさつして。」

「えー めんどくさいよー」

・・・うん確定 後ろのやつは篠ノ之 束だろうな

「それに こんなやつともだちになつたて いいことないよ。おたくで きもくて いんしつで ねくらそうだもん。」

毒舌設定はこの頃でもあるらしい、きもい以外は同意してもいいが俺ってそんなにきもいだろうか？

「で何の用？」

とりあえずかかると面倒なことになりそうだ

「おともだちになるっ？」

「どうしたら友達になれるの？」

前世から思っていたことだがどこからが友達なのだろうか？そのことをクラスメイトに聞いてみたら一緒に遊びに行くのが友達・他人の家に上がって遊んだり泊まつたりするのが友達、中にはしゃべったら友達というやつもいた。

俺は、誰かと遊びに行ったこともないし、誰かの家に行ったこともない、しゃべったのは学校での発表での意見や必要事項の連絡ぐらいだ。

まあ 寂しい奴だと思えばいいけどさ、束が言ったこともあながち間違いないじゃない。(アニメとか好きだしな)

「あそべばいいのかな？」

「何かしたい？」

「おまえみたいなのくらとあそぶなんてありえない。」と言って腕に抱えたノートPCを立ち上げる束

「わたしは…その…したいことがおもいつかない。」といって束のほつを見るて束が「だったらたばねのPCみればいいよ！そうしよ！」「とって強引に袖をひっぱり隣に座らせる。

「じゃ 俺は寝る。」とお「おまえにはなにもいってない」あつそうですか

こつして帰る時間になるまで俺は寝て 織斑 千冬は篠ノ之 束のPC画面を見続けていた。

夜

「もしもしー 神様今ひま？」

『はいはい暇ですよー。異常がなさ過ぎて新しい世界でも作るうとしてました。』

「暇だからって新しい世界つくるって大事じゃないのか？」

『いえいえ、ドラえもんの映画にでてきた創世セットで作るので半日あれば十分です。』

「・・・ドラえもんが神の頂点なのか？」

『まあ 死神だったり創神だったりいろいろいるんですよっちは。』

「ブリーチとかな世界もあるのか？・・・ってそういうことじゃなくてさ」

『何なんですか早くしてください、こっちは急いでいるんですか』
『』

「・・・さつき暇だから世界つくるうとしてたとか言わなかったか？」

『後輩がちょっとへましたようです。でそのサポートしなくちゃならなくなりました。』

「ああ、じゃあ 今日原作キャラにあっただけどさげな」『原作ブレイクしてかまいませんよ？』「なんでさ？」

『あなたがいるのは原作とは違いISの並列世界ですから、まあ原作ブレイクしてしまっただけは何が起きるかわかりませんが。』

「ふーん」

『あと原作とは少し違ったことが起きるかもしれません。』

「たとえば？」

『そうですね。織斑千冬と織斑一夏の年齢差が違ったり、原作ではミサイルが飛来してくる数が200ではなく多かったですりするかもしれません。』

「そうなんだ。まあ何が起きても巻き込まれなきゃいいだけだし、後輩助けてきてあげなよ神様」

『一様名前があるので言っときますがアテネです。神様では味気ないですし信仰心もないでしょ？』

「当たり前やがないか。命は助けと貰って感謝はしてるけどなんで信仰せにゃならん。というか手違いで殺されたし。」

『まあ、信仰があたってもなくてもどつでもいいんですけどね、仕事ですし。』

「まあ、仕事がんばってアテネ……って首都との名前じゃね？」

『被っているだけです。では『ピッツーツー……』

「原作ブレイクねえ……まあ関係つくったところで大きくそれることはないだろうな。」

今幼稚園児です (後書き)

こんにちは 紅刹那です

今は竜頭蛇尾の勢いで書いてます(それじゃあかんたる

こんな駄文しかかかない作者ですがどうかよろしくお願いします)
それって一番最初に書かにならんのじゃね？

幼稚園の日々

幼稚園では前まで1人で木陰で寝ていることが多かったが、ここ最近では1人ではなく3人になっていた俺と織斑と篠ノ之である。

あれから3日くらいたつが何か進展があるわけではなく、俺は寝て、篠ノ之はPSのキーボードを叩き織斑はPS画面を見つめる。で他の園児たちは、遊具で遊んだり砂場で小山を作っていたり、でときどき織斑が行きたそうにそわそわしている。

「混じりたかったら混じってきたら？」

「だってみんなこわがるから・・・」

確かに織斑はツリ目だから睨まれているようにも見える。だったら・・・

「ちょっと来てくんね？」俺は立ち上がって園児達が多い砂場に向かう

「え？」

織斑は戸惑いながら俺についてきたそして

「はい、ちゅーもーっくー!!」

とって園児がこちらをみると同時に織斑の後ろに回り（足鍛えておいてよかった）目のあたりの皮膚を上、横、下とひぱったり回したりしてみる。

目が怖いのなら目を面白くしてやればいいんじゃない？って考えたわけだ俺は。そして

「「「「あはは」「」「と園児達は笑い「おもしろいかおー」「もういつかいやって」「とか言ってきた。

「ねえ、いつしよにあそぼ？」と誰かがいい

「うん！」

ふー失敗したらどうしようかと思った・・・

で俺はもとの木陰へと帰る・・・え？織斑達と遊べって？これ以上フラグ立ててどうすんの？というか幼稚園児と遊んで俺が楽しめると思うのか？PSPでアーマードコアやっているほうがまだましじゃね？というかそっちのほうがおもしろい。

って篠ノ之どうしよう。まずい俺が織斑を自分から奪った形になってしまう。俺の計画では篠ノ之もついてきて2人には園児の輪に入ってもらうつもりだったのだが・・・これでは1人孤立してしまった。やヴあい えーと・・・

「織斑が砂場で遊んでいるけど行かないのか？」

「ゆづどうしてなにいつてるの？ばかなの？しぬの？」

「馬鹿ではあると思うけど死ぬ気はないです。そしてごめんなさい。」

「フン」

それから篠ノ之は今までと同じようにPCのキーボードをたたき続けた。ただ今までのキーボードは流れるように音を奏でていたが、この日は力押しでたたいているような音が聞こえた。

それから次の日、今日も俺・織斑・篠ノ之の3人が木陰にいた。途中織斑は園児から声をかけられ遊ばないかと誘われた。その時、織斑が

「2りもいつ」

と織斑がいつてきた

「ちーちゃんがいうならいく」

よっしやああああああ。これで篠ノ之は孤立しなくて済む。そして俺は篠ノ之からターゲットから外される。将来ISつくって世界征服しようとするればできるからなこいつ。

そして、俺は安心して日々を寝て過ごすことが……」きむらぐんもきてよ」「……え？」

「Why?」

「え?」

「声かけたのって篠ノ之とそっちの子だよな？」

「ちがうよ。たばねちゃんときむらくんだよ？」

これ以上フラグを立ててはいけない、そんな気がする。

「えーと、これからお昼寝しないと俺は一日の睡眠時間20時間を達成できん」ちーちゃんのいうことはぜったいなもの、ついてこなかったらつぶすよ？」はい遊びましよう・・・」

なんでだろう白い悪魔がいた気がする。

んで、かくれんぼをすることになった。

参加者は園児13人（俺も含めて）で鬼は織斑とさっきの声を掛けてきた園児そして現在スタートから18秒経過、あと12秒のうち隠れなくてはならない。

よし木の上か屋根の上に登ろう、そうすれば見つけずらいさらに木なら昼寝できるし、屋根の上なら日向ぼっこだ。ということでも木陰で寝ていたので屋根の上に登る。

え？どう登るのかって？この幼稚園2階建てでハシゴが2階の壁

についてある。しかし危険防止のため園児には手が届かないが、俺は足を鍛えているため跳躍で手をハジゴに引っ掛けることが可能である。3つ目の能力で足だけは鍛えていた成果が今出た。そしてのぼって……

篠ノ之がいた。

「どうやって登ったの……」

「そっちこそどうやってのぼってきたの？」

「跳んで」

「あっそ、でもここはわたしのかくれば。どっかいけ」

しかたない 物陰にでも隠れるとしようかなと思ってハジゴを降りはじめ……「ちよっとまった」なんか声かけられた。

「なに？」

「……なんでおこらないの？」

「何に對して？」

「たいていバカついていわれたらおこるでしょ」

「本当のことじゃね？」

「じかくがあるの？」

「それもあるが、篠ノ之が俺をバカって思っているならそれが俺の存在ってことになるんだろ？」

「じゃあ、あんたはわたしをどうおもってるの？」

「うーん・・・織斑には心を開いているけどそれ以外の人はどうでもいいって感じな人」

「ちがうよ」

「そうなのか？」

「わたしがこころをひらいているのは、ちーちゃんのほかにほっきちゃんといっくんだよ」

あれ？もう一夏と暮って生まれてんのか？これがアテネの言っていた原作とは違ったことが起きるといっことはこのことだろう。

「っそ」

「なにそのへんじ」

「いや俺関係ないじゃん」

「そうだけど、であんたはあたしにばかとおもわれたままでいいわけ？」

「べつにいいよ。そういう風に見られるのが嫌になったら、変えていけばいいだけだと思うし。大変そうでやりたくないけど。」

そう言い終わったとき下から「きむらくんみーっけ!」って言われた。

そういえばかくれんぼの最中だったな…

「あんたのせいでわたしまでみつかるじゃない!!」って篠ノ之が大声をだしてしまつて「そこにたばねちゃんもいるんだ できてー」って織斑の声が聞こえた

「あんたのせいでみつかったじゃない」

「見つかるのが嫌なら出てくるなよ」

「ちーちゃんがでてきてーってでていくしかないよ」

どんだけ百合なんだお前は

そして、せんせいに屋根は落ちることがあるからもう登るなどお
しかりを受けた

帰り道に篠ノ之から蹴りをくらうはめになってしまったのは不運
だと思っ

幼稚園の日々(後書き)

んー 篠ノ之束どうしようかねえ…

なんかツンデレ化してきた

幼稚園の日々 2

今日も木陰の中で寝ようとしていたのに織斑のやつ最近また俺を誘おうとしてきた。

あの日から、遊び仲間が増え笑っている姿をよく見かける。あーやだやだ。

え？何がいけないかって？

だって、子供達って相手にすると疲れてくれんだじえ？例えば、最初のうち熟語やらことわざやら知っている言葉（子供達はまだ覚えていない）を言って言葉が通じなかったり、それなに？って言われていちいち説明するのがメンドクサイ。

篠ノ之の方は織斑とは遊びたがるが他の子たちとは遊びたがらない。で、子供たちの人間関係を崩すわけだ。

あそこから、関係を作るのは難しい、「嫌な奴」というレッテルを貼られていると思う。もともともかもしれないが。

どうしようか？

で今の時間はお絵かきであつたりする。

俺は前世の記憶があるから、ガンダムやらアーマードコアの機体やら書いていたりするわけだが脳内に、数式やらなんかよくわからないイメージが出てきたりする。たぶんこれが開発チートの能力なのだろう。で紙の裏側にその数式やらイメージやら書いている。

「なにかいてるの?」といって紙を覗いてきた織斑が言う。俺は書くのに夢中で聞いていない、今のうちに書いておかないと忘れてしまうのでは?と思うしやっぱあこがれるかなあ

「すごいもじがおおいね　ねえたばねちゃんなんてかいてあるのかわかる?」

「……………」　「黙り込む篠ノ之

「たばねちゃん?」

「……………」　「おい」

俺は書くのに夢中で聞こえない

「……………」　「おい!

俺は書くのに夢中で聞こえない

「……………」　「おい!

「!……………」

俺は書くのに夢中できこえろ」パンツ」

「いてっ」

ハリセンで叩かれた。なんでやん

「なに？」

「これあんたがかいたの？」

「そうだけどなに？」

「もっとみせてもらっていい？」

「いいけど……」……あ やべみせちゃったよ さすがにこの歳では篠ノ之もわからないだろうと高をくくっていたが、こいつ原作じゃ天才なんだ。今書いた数式やイメージがこいつには分かってしまう可能性がある。というか真剣に見ているのは分かっているのだから」

一 波乱ありそうな予感 大丈夫か俺？

幼稚園の日々 2 (後書き)

今回少なかったかな？

小学校へy

前の話からいろいろと篠ノ之が話しかけるようになってきて、原作介入確率が高くなってきあがった。

メンドクセエー

さらに1学年違うから、幼稚園に残ろうとするは卒業式は潰そうとするは……止めるのがきつい。それで、卒業してからも幼稚園で待ち受けて一緒に帰ろうとする……ハア

それで小学校は別にしようとか家より離れた学校選んだら、あの糞野郎（この場合糞女か？）が工作しあがって同じ学校になってしまった……

入学式何があったか聞かいかい？聞きたい人は聞いてくれ（もしくは読んでくれ）

sideアキラ

顔文字からはわからんだろうがまあ世界チャンプ候補のボクサーのパンチぐらいだと思ってくれ、なんか真似してたら身に付いた。

「ひどいよあつくん！ハグだよハグ！おめでたいことがあったら親しい人とハグするのは常識だよ！あつもしかしてあつくんはキスがおのぞm」「ブルルルアアアアアアアアアア！」「ゴッフ」

「何がおめでたいの！？血みたいな字でおめでとうと書かれてもちつとも嬉しくねエよ！他の子怯えてるし、うるさいし、迷惑千万だろ？！そしてハグって欧米かよ！」

「なかなか古いネタを使ってくるねあつくん！！」

もう一度殴って篠ノ之を沈黙させ、入学式は、看板やら花火やらを撤去して開催された。

ちなみに篠ノ之は織斑からO H A N A S H I されたらしい。

「東、どうして放課後まで待てなかった」

「だってー」

「放課後になったらお持ち帰りしようと言ったのは東だぞ？そしてお持ち帰ったら」

「ちーちゃんと東さんの魅力であつくんをい ち ころ」

それからまた篠ノ之は気絶したとか「やめてくださいすみません
でしたスイマセンデシタスイマセンデシタスイマセンデシターー
ー」とかうわごとをつぶやいていた。

小学校へy（後書き）

今週から研修です。

次は12月いこうとなるだろうか・・・

現在中学生

今俺は町はずれのゴミ捨て場でゴミを漁っている。別にホームレスになつた訳ではない。

現在の俺は中学2年生なのだが、中学に入って機体をつくり始めたのだが、まだ完成していない。技術的な問題ではなく、資金的な問題である。

中学2年のこずかいなんてたかが知れている。配電コード、電子部品、装甲、いろいろ必要なのだが、専門店やネット販売で全部そろえられるわけがない。

というわけで、資金面の問題をこのゴミ捨て場でどうにかしようとしている。

まず機体に使えそうな部品を集めるのと、直せそうな機体を集める。

直せそうな機体は、直してリサイクルショップやバザーなんかで売って資金を集めている。売った金額は結構な額になっていると思う。

(まあどうでもいい話だが、こんなところでゴミを漁っているせいか学校で、汚いだの・臭いだの言われ印象は良くない。そのため友人関係もほとんどいない。)

俺の記念すべき最初の機体は「CR」(コア)と名付けた。形状はアーマードコアネクサスの初期の機体で、ジェネレーターにはG

Nドライブを想定している。

え？Oガンダムじゃねえのかよって？

Oガンダムは、GNフェザー、ビーム兵器、Eカーボンなどの高技術をもっているんだ。そこが問題。

今の俺には金がない。で、Oガンダムを再現するのにかかる費用を計算してみた。

・・・
（悲しいねバジーナ
うん無理）
・

まあ、今ある方法でつくっていくしかない。

で、機体状況だが完成度70%ちょいというところである。作り始めて1年と10カ月ぐらいたった。

まだ、左腕部が完全ではないし武装は初期武装を想定しているがレイダー（CR-WB69RA）以外は無い。

心もとないがエアガンを改造し、小型化・連射強化・威力強化してガンダムでいうところのバルカンを作成。カテゴリーはインサイドとエクステンションにして取り付けてある。形状はハンドガンの取っ手をなくして、3本並べ後ろの方に弾薬（パチンコの玉）の箱があるような形だ。

威力はコンクリートに1cmめり込むってところだ。

推進力にはGN粒子のフォトン崩壊現象を使い、ブースターは排気口の奥の方に小型のGNコンデンサーとエネルギーケーブルをつないである。

装甲は、その辺に放置してある車から抜き取り、溶接機でつなげたりしている。それにGN粒子を吸蔵させ防御力をあげ、軽量化にも成功している。

こんな感じだろうか。結局のところ性能なら第一世代のISに負けている。現代兵器でも上回ってはいるのだが数で攻められれば、負ける。

こちらのアドバンテージは、GN粒子の通信妨害・レーダー妨害・質量減少・慣性力の減少ぐらいだろうか？

だが、慣性力の減少・レーダーに映らないステルス性能はISのもあるはずである。たぶんだが質量減少も幾分があるだろう。

だとすると「CR」は白騎士事件の時に出さない方がいいのかもしれない。そもそも「CR」をつくったのは、アテネが言っていた原作とは違うということが白騎士事件で起きるかもしれないからである。

で、今のスペックだとやばい。ミサイルは何とかなるかもしれないが、ミサイルを撃墜した後に各国から戦闘機やら巡洋艦やらうじやうじやでできたはずである。

それらと対峙することになると、いくら俺が普通ではないとはいえ生身の人間だ、銃弾で撃たれば死ぬ。それに相手を生かしたまま倒せるほど余裕もないだろう。

遠くから様子を見て危なくなったら助けて、とつとと各国の戦闘機が来る前に、逃げる。

うん。これでいこうか。

『ブーブー』

「やべっ、道場の時間過ぎてる」

俺は携帯のアラームを消し、近くに止めてあった自転車で道場まで走る。といっても、もう遅刻だろうが・・・

小学6年の終りぐらいまで織斑に誘われ続けていたのだが、無論、めんどくさそうなので断り続けていたら業を煮やしたのか、織斑が

真剣持ってリアル鬼ごっこになった。

あれ？

Qなんで真剣持ってるの？

A道場からもらった

Qなんで振り回せるの？

A稽古しているからな

らしい

こいつもチート能力もった転生者か！？ とかおもった。

まあ、経験値急増蓄積のおかげで、高校生とも互角に近い試合を
することができる。

織斑は国内優勝候補に全連勝してたが………。

うん。チートだ。

で、今道場につき自転車を止め道場に入るとそこには、

鬼がいた。

「誰が鬼だ。」

「なんで心読めるし。」

ほんとなんで？

「顔に書いてある。で、遅れたわけは？」

「ゴミ捨て場でゴミ回収して『シュツ』！！」

俺は危険を感じ、反射的に後ろに下がったそして手前を何かが横切ったので見てみると、真剣だった。

「まったく、なんで私の剣は避けられるのにお前は不抜けているのだ？」

「俺が不拔けているのは何時ものことだ、そしてなぜおれを殺そうとしたし!？」

「私は、時間が守れない奴と不拔けている奴は嫌いだ。」

「だからって殺そうとするか？」

「避けただろうが。それに峰打ちだから安心しろ。」

よく見ると織斑が持っている刀は逆向きだった。

「安心ねえ……」

できないぞ俺は。

「それに木村さんたちからお前のことを頼むといわれているのだ。」

「俺の両親は今ドイツで研究をしている。母さんがドイツ人で父さんが日本人。」

なんでも研修で来た時に知り合い、付き合いだしたらしい。

母の眼が紅くて俺の眼も紅い。それ以外は日系人の黒髪に黄色い肌である。

俺はどごその心霊探偵の糞父親でもないし、運命で主人公にならないキレやすい奴でもない。

この眼を小学生の時に、怖がれたり、気持ち悪がつたり、からかってきた奴がいたが、からかってきた奴らは、ちゃんとその言動や暴行を録音してぶん殴ってやる。

それでも懲りない奴は、翌朝ゴミ箱に頭から突っ込んでいる、という奇怪な現象に襲われたらしい。

なんというかこんな転生してぐーたら生きているのに、それでも育ててくれた人たちを馬鹿にした奴に、なにもしないというのは出来ない。

正義感とか良心とかではなく、ただ単純にムカつく。だから殴る。

「それにお前を殴るといふ楽しみが増えるしな。」

つと今は会話中・・・って

「おまっそれ、虐待。」

「大丈夫だ。阿呆の騷と言ってある。さて、騷ついでに死合いもしとくか。」

「待て字がちg」

それから、騷という名の虐待が始まった。

「いてえ・・・」

「大丈夫か？アキにい。」

「大丈夫に見えるなら眼科行け。」

今道場から出て座り込み織斑一夏とで 織斑千冬と篠ノ之箒を待っている。

そして俺は織斑（千冬）の方に躑という名の虐待を受け体の至る所に痣がある。

「でもすげえよアキにい。千冬ねえから一本取るなんて。」

「まあ、な。」

「30試合もして1本しか取れないとは情けないと思わんのか？」
いつの間にか鬼がうし「ゴコンッ」・・・ぐーで頭殴られた。

「また、顔に出てるぞ。」

「俺の体は崩壊寸前です。」

マジで

「フン、まあいいだろう。」

やった許してくれた!!

そして、篠ノ之箒がきたので4人で帰ることにする。

ちびっこ二人は前で会話している。

いつもなら篠ノ之束もいるのだが。

「なあ篠ノ之最近見ないけどどうした？」

「なんやらパワードスーツみたいなものをつくっているらしい。」

どうやらもうそろそろ白騎士事件が起きるらしい。

急ごしらえでもいいから完成させておくべきか。

「あとアキラ、いい加減 織斑・篠ノ之ではなく名前と呼べ。紛らわしいだろうが。」

「織斑それ……」

「私の名前は千冬だ。」

「織斑千冬……」

「なぜ名字まで呼ぶ。」

「……千冬それはフラグだ。」

ほんとフラグにならないよな？

『でお金をどうしようか？と私に聞くのですか？』

「まあ、愚痴程度に聞いてくれれば。」

今アテネと携帯で話している。これから第二世代、第三世代をつくっていくのだから金は今まで以上にかかる。

現在中学生（後書き）

帰ってきました。

次回は白騎士事件でs・・・え？なぜOガンダムじゃない？

いや、あれはグレーだとかっこいいんですが、なんか気分が出し
たくなかった！！俺は平成ガンダムはだからな！

（OOじゃなくね？）

白騎士事件

俺が中学3年になって1ヶ月たったころ、束がISを発表し政府がISの性能を認めなかった。

政府に発表した数日後、残念会をしたり・俺がISを見て強化プランを提示したり。（「見せて」といったらみせてくれた。・・・いいのかそれで。）ISの強化は俺が白騎士事件に介入しないようにするためだ。

そして、1ヶ月半たったが、まだ白騎士事件は起きていない。

その間に株をやって金を集め機体改造費にし、できるだけ強化した。

で、今の機体状況だが

未完成だった左腕部は完成した。

GNドライブもアテナから1個受け取り装備してある。（Oガンダムのオリジナル太陽炉）

武装関係はエアガンを改造しまくって、アーマードコアでの初期のライフル（CR・WR69R）の再設計した（CR・WR73R2）をつくった。

また、腰にマウントできるようにして装備している。

またそれぞれのエアガンを改造し

右腕部 スナイパーライフル（CR - WR73RS）

左腕部 マシガン（CR - WL74M）&レーザーブレード（
CR - WL69LB）

バックユニットL レーダー（CR - WB69RA）

バックユニットR 小型化チェインガン（CR - WB72CGL）

インサイド バルカン（CR - I1B）

エクステンション バルカン（CR - I1B）勝手に命名

を取り付けてある。

初心者の俺が動く物体にあてられるか疑問だったため、ガンシューティングゲームで鍛えてはいるが大気の状態や反動制御がゲームにはないため不安だったので、打てば当たるの思考で連射、弾数が多いようにした装備をつくった。

弾丸は外国から輸入できるらしいのだが、日本に持ち込めるだろうか？ ということで弾はパチンコ玉・・・打ち落とせるのか？ ミサイル

あと、試作段階のレーザーブレード（CR - WL69LB）は後ろの方に、GNフラッグのようなコードが付いておりその先端に背

中の小型コンデンサーからGN粒子を得ている。(配置場所はリーダーとの接続部分に長さ3cmの円柱がコンデンサーでその端にリーダーを取り付けた。)

だが原作ビームサーベルと比べるとダメな武器である。刃の部分が20cmもなく、またエネルギーの使用率も悪く威力も原作程ない。

確か同じ装甲を1度で切れたはずなのに、このレイザーブレードは何回も切りつけなければ切れない。

また、Oガンダムのもシールドも作り背中に斜めに取り付け、シールドの裏側にブースターを取り付けた。使用時には取り外すのはマシガンのみでブレードは装着し続けることが可能だ。

これで機動力やら総火力やらが強化された。

また、一様トランザム可能機体である。ただし発動時間は短く最大継続で45秒、粒子出力も3倍ではなく1.8倍である。

まあ、ISに足元くらいにはおよぶ、ってぐらいの性能なのだろうけど。

本当に、株やって儲けなかったらヤバかった。未完成で出撃する可能性があるのだから。

『 P R R R R R R、 P R R R R R R 』

携帯の着信音だ。

「はい。もしもし。」

『アテネです。今各国にハッキングされたミサイルが日本に向かってきてますよ?』

「え?」

テレビをつけてみる。そこには信じられないという顔のニュースキャスタが

『全国の皆さん落ち着いてください。いま日本にむかって2341発、いえ、さらに873発今発射されたのミサイルが飛んできてます。』

とか言っていた。

確かに耳を澄ますと、悲鳴や怒鳴り声が聞こえてくる。

『ど、どつするのですか?』

「とりあえず」

『とりあえず?』

「ファーストフェイズを開始する。」

『カツコよく決めつつもりでしょうが、ただ見ているっただけですよ？ ファーストフェイズって。』

いっなよ

家のカギを閉め、自転車を走らせゴミ捨て場に向かう。

ゴミ捨て場に到着し、自転車をその辺に止めすばやく「CR」を起動させミサイルの来る方向へ飛翔する。

「CR」出る!」

恐怖がない訳ではない、ほんとなら関わらずにいたい。でもそれで取り返しのつかないことが起きたら？、もし俺の家に落ちたら？

もし町に落ちて人がたくさんいたら？誰だっただと聞かされていい気分にはなれない。結局のところ自分のためなのだけども。

俺は、力を持っているのに。

だから行くんだ。

もしのことが起きないように。

P l a c e 海上 S a e d 千冬

「ちっ
」

ミサイルを3発ほど同時に切り裂き、荷電粒子砲を呼び出し、

3と遠いほうのミサイルを撃ち落とした後、また、ISを加速させ縫うように進みミサイルをいくつも切り落とす。

「まったく、多いぞ束め。」

いくらISが現代兵器より強いといっても無敵というわけではない。確かにシールドエネルギーや絶対防御があるため死にはしないが、飽和攻撃を受ければいくらISでもきついだろう。

「くっ！」

そんなことを考えていたせいかミサイルがうじゃうじゃ向かってくる。

剣で切り裂き一瞬目の前が爆煙につつまれる。

この時ミサイルが3発、白騎士の横を通り過ぎ、日本へと向かいつつあった。

「!!!っ。しま『ダンッダダンッ』……」一瞬何が起きたのかわからなかった。

通り越してしまったミサイルが自分の目の前で爆発した。なぜ？

その疑問は、爆煙が晴れてからわかった。

「灰色の……IS……?」

それは全身が灰色の箱のような無骨なデザインだった。

S a i d o u t

「あぶねえあぶねえ。」

ハラハラした心を落ち着かせるために言った軽口だ。

別に見過ごしてよかったはずだが、体が危ないと思ってしまったのか動いてしまった。

一発目をスナイパーライフルで撃ったのは、破壊できるか不安だったため、ではなく、俺が右利きだったため反射的に動いてしまった。その後の二はつめは落ち着きを戻しマシンガンが使えるかどうか調べるため弾膜をはり破壊した。

『大丈夫ですか？』

アテネが携帯電話ではなく、脳に直接響くようなそんな感じだ。

「意識共有空間じゃねえぞ。」

『すいません。少しでもお力になればと着た次第です。』

「じゃ、ミサイルが来る方向を示してくれ。目線をレーダーと全面に見直すのきついんだ。見落とすかもしれない。」

『わかりました。』

フーッと深呼吸をした後

「「「CR」目標を駆逐する！」

それから、アテネのサポートを受け白騎士と一緒にミサイルを叩く。

ミサイルを何とかすべて破壊した。ライフル以外の射撃武器は
残弾数が半分を下回っている。

目の前には白騎士。

微動だにしない。

まさかな・・・。

白騎士事件（後書き）

白騎士事件はまだ続きます

白と灰

S a i d 千冬

『ちーちゃん、そいつやっつけて!』

ミサイルをすべて落とし終えた後に通信で束がそんなことを言った。

「協力した奴をか?」

『ISはISでしか倒せないって世界に見せつけないと意味がないんだよ。』

確かに今回の騒動はISの性能を世界に見せつけることが目的だ。

『ちーちゃんだけを印象づけろはずだったのに・・・こんなんじや半減しちゃうよ。』

「・・・・・・・・・・・・・・・・」

『それにあの機体の光通信を妨害するみたい。』

「こちらのレーダーも映りが悪い。種は速いうちに摘んだ方がいいということか・・・」

『ちーちゃんお願いできる?』

「……………わかった。」

協力したことは感謝する、……………だが束ためだ。

「目標を破壊する。」

そう、破壊するだけ殺しはしない。

S a i d o u t

どのくらい動かずにいただろう。そんなことを考えていた。

『気おつけてくださいアキラ。』

「ん？」

『彼女たちはISの性能を示すため攻撃してきます。』

「脳量子波でも使ってるのか？」

『似たようなものです。あなたの心を読んでいたでしょう？』

「千冬も読んでくるかな。」

『あなたが顔に出やすいただけです。』

そんな雑談していたら白騎士が剣を振り上げ突撃してきた。

速い

ミサイルを打ち落としている時にも見てもいたが、その一言に尽きる。

俺は後方へ下がり、左肩を前に出し右肩を引く様に回避行動をとるがこちらが速すぎて間に合わず、スナイパーライフルが切断される。

武器にかかった金を気にする余裕なんてない。

すぐさま左のマシニングンをぶっ放す。

で白騎士は避けた。20弾全弾。

まで、いくらISの方が能力が上だからって1mの距離から1発も当たらないのはおかしいだろ…。

とりあえず近づけさせない様にマシンガンの引き金を絞り、腰に装着してあるライフルを抜き両腕撃ちを始める。ついでにバルカンも撃ち続ける。

白騎士は近づいてきているのに、俺の弾膜はまったくいいほどかすりもしない。

これはもうISの性能よりも千冬自身の方を恐れるべきだった。

そして、荷電流砲を打ってきて俺は避けるだが、それが相手の狙いだった頃にはもう遅い。

体勢を崩されたところに懐に入り込まれ切り裂かれそうだった。なんとか左腕のブレイドを展開させ
罅迫り合う。

「ビーム兵器だと!?!」

バイザーで顔の上は見えないが驚いている様だ。

(それはそうだろう。ビーム兵器なんて軍でもどんな研究機関でも未だできていない。実用化にいたっているのは東のISぐらいだ、だがしかしこのブレイドもまだ改良しなければだけどね。)

そして、蹴られて距離を離され再度の突撃。なんとか避けようとしたが間に合わずマシンガンが切断される、俺は背の盾を左腕部に装着させ未だ振られる剣を防ぐ、だが後方に飛ばされ、剣はそれにとどまらず1振りまた1振りと切り続けられ、盾が耐久値を超えそ

うになる。

(くそっ)

このままじゃ倒されるだけだ。

俺は降下して海の方へ急ぐ。

白騎士も追ってくる。

そして肩のチェインガンを外しライフルを撃ち爆散させる。それが煙幕となり身を隠す。ここでコンデンサーにある高濃度GN粒子を解放させる。これで相手のレイダー機能を麻痺させることができず逃げ切れなかったら本当に死ぬ。

そして俺は海に潜り、逃げた。

S a i d 千冬

『ちーちゃん!』

「すまん。逃げられた。」

あの碧色の光の噴出のせいでレイダーがダメになった。

『ちーちゃん戦闘機が向かって来るよ。そっちを迎撃して。』

「……あの機体はいいのか？」

『もう無理、追跡不可能だよ。』

「わかった。」

撃ってきた戦闘機を人を殺さないようにぶった切った。

（あの機体に比べれば）

まだ撃ってくる戦闘機を次々と切り

（数だけの貴様らなど）

（どうということはない！！！！）

そこからは原作道理に戦闘機・巡洋艦・空母を人を殺さないように無力化し、忽然と消えた。

白と灰（後書き）

白騎士事件 終了

GN粒子をすべて解放 高濃度GN粒子を解放 に変えさせてもらいました。

全部解放したら 水中の中でのトランザムが使えないので。

臆病者と愚か者

とりあえず恒例になりつつある、機体状況から。

前との戦闘で、ライフル、レーダー、バルカン、ブレイド以外はすべて破損した。

シールドは何度も切りつけられ耐久値がヤバい。せいぜい後一回喰らっていたら壊れただろう。

機体そのものは無傷だったが、逃げるために水中でトランザムを使い無理矢理水中を突き進んでしまった。そのため機体のあちらこちらが悲鳴をあげている。

よく生きてたな俺。

とりあえず金もたまりだしたことだし、ガンダムシリーズでも作るうかと思っている。

そういうわけで『CR』の修理、機体強化はしていない。

「え？ドイツに來い？」

今両親と電話中だ。なんでも今回の騒ぎ（白騎士事件）で心配し電話をかけてきたのだが、今後も事件が起きる可能性がないとも言えないからこつちで暮せ、という事らしい。

まあ、ないとは言えない。

今回、俺が介入したせいでISの評価が変わるかもしれない。といつても結果的に「CR」を倒しているし、その後の戦闘機207機・巡洋艦7隻・空母5隻・監視衛星8基を撃墜・無力化・・・つて監視衛星つて宇宙になかったけ？大気圏外にも攻撃可能だと・・・？すげえな、おい。

まあ原作道理の評価である可能性が高いが。

「というわけで来週あたりからドイツに行くわ。」

両親からの電話を聞き、ドイツに行くことを道場の帰りに織斑・篠ノ之兄弟に報告。

なーんか千冬以外泣きそうにしているんだがどうした？

「あつくん。私を捨てていちゃうの？」

「・・・めっちゃ誤解を生みそうなセリフだな。」

「だってだって！やっとISの性能が評価されたのに！」

「いや、俺開発にかかわってないし。」

「えー。束さんと一緒に開発三昧生活送ろうよお。」

結構魅惑的な誘いです。

「なに誘いに乗ろうとしている貴様は。」

なぜわかったし。

「以前言ったが顔に書いてある。」

そんなに顔に出やすいだろうか・・・？

「アキにい、もう合わないの？」

「いや、長期休暇には帰ってくるし今の世代、国際電話もできるしな格安で。一ヶ月に1回ぐらいだと思っけど。」

「じゃあ、お土産頼むよ。」

「おう。・・・忘れてなかったらな。」

「そのくらい忘れるなバカ者。」

「じゃ、お別れ会でもしませんか？あ、この場合送別会でしょうか？」

「よく知ってるねえ箒ちゃん！。それじゃあそれに合わせてプレゼントをあつくんにあげようよ。」

というわけで、来週旅立ち会をすることになった。

道場から帰った後、みんなに荷物の整理を手伝ってもらっている。「別にいい。それに散らかってるぞ。」と言ったが、なんやら忙しいだろうとか時間もないだろうとか理由をつけられて押し切られた。

で、一夏の作業速度が速い速い。俺だと2時間はかかりそうなダンボール詰めや掃除など40分ぐらいで終わらせていく、で姉の干冬だがこっちは対照的だ。普通服を詰めるのに折りたたんで詰めるだろ？こいつ投げてダンボールの中に入れたら、10cmぐらいはみ出している服の山を力押しで入れあがった。

たたむ努力ぐらいしようじえ……。

篝ちゃんは一夏に習いながら荷物をかたずけて行く。ほんと仲が
いいな。一夏がうらやましいよ。

東の方がこっちはまだもうマンガ読んでいたり俺のエロ本を漁って
居たりしていた。そのエロ本は千冬の手により、手で千切られ・刀
で切り刻まれ・ゴミ袋の中に入れられ、火曜日千冬がゴミ捨て場
に出した。

「なぜこんなものがある!？」

「見損なつたぞ!!アキラ!!!!」

「いいか貴様はまだ15だろう!これは買ってはいけないものな
んだぞ!!聞いているのか!？」

とかを顔を赤くしながら言い、4時間以上の説教(というか怒鳴
り声)を聞く羽目になった。

その間俺は泣いていた。別に買っていいじゃねえか!!俺だつて
そういう年なんだよ!!って俺転生してるから実際年齢30超えて
るな……。うん。スケベ親父になってしまふのだろうか？

まだ、まだ待ちあうよね俺!？

自分で言っておきながらなにが間に合わないのか疑問に思った。
こっちの世界じゃ15歳なんだから。

で、学校に説明して退学したり家の手続きをどうするか両親と相談したり（家は残すことになった。何らかのトラブルでISを動かしてしまった時、必要になるだろうと思っただ。）一通り準備を済ませた。

で、問題がまだ残っている。

「CR」の事だ。

現在ゴミ捨て場に置いてあるが誰かが持っていたり、ゴミと間違え処分されたら大変だ。だからってダンボールに詰め輸送できるだろうか？

分解すればいいだけの話かもしれないがそうしてる時間がない。

どうしようかと悩んで、不安ではあるが………束に預けることにした。

一応ブラックボックス化してあるのだが自力で解いてしまいそうで、擬似GNドライブとかつくって何らかの厄介事（特に俺への）を起す気がしてならない。

かといって千冬に渡すわけにもいかない、これをつくった理由を聞いてくると思う。興味心でやったって嘘ついても、すぐ嘘だとばれてしまう。

俺が転生者で、神様から力をもらい、これから起こることを知っていて、その対策として作りだした。っていう本当のことを言っても頭がおかしくなったって思い病院に連れて行かれるのが落ちだろつ。

あいつなんだかんだで面倒見はいいんだ。学級委員長を何年もやっているのは伊達ではないということか。

それに束なら」「あつくんすこいねー!」「ぐじいで終わると思っ。

それに俺の心の中で嫌われてしまっのではないか?という気持ち
が渦巻いている。

前世では、束や千冬のような「友達」と心から言える奴はいなかつた。

結局のところ、俺は臆病なのだ。

だから、今のこの関係を崩したくない。

たったそれだけの事だ。

で、束をゴミ捨て場に連れてきた。

「あつくん。まさかこいうところでそういう趣味が。そういうえばあつくんのエロ本にそういうジャンルのが…。」

「違う。少なくとも現実でそういう事をしようとは考えない。」

「ちえー。じゃあなに？」

「こいつを預かってもらいたいんだけどいい？」

被せてあった布を取り、灰色の箱を繋げた様なロボットが姿を現す。

「これあつくんが作ったの？」

「まあ。」

「もしかしてこれに乗ってミサイルとか壊していたりした？」

「まあした。」

「もしかして……ミサイルハッキングしたのが誰か
で白騎士って呼ばれているISに乗っていた人が誰だか知っ
てる？」

「東と千冬。」

「……………」

「……………」

二人が沈黙してどのくらいたっただろう。1分にも30分にも1
時間にも思えた。

「……………ごめんね。」

「

「……………」

「私ねISの性能を世界に見せるためにちーちゃんにもあつくんにも迷惑かけちゃった。」

「いつものことじゃね？それ。」

「でも！……でもあつくんを攻撃するように言ったのは私だよ。私は愚か者だよ。」

「あー、もうどうでもいい。それに俺だって臆病者だ。俺のホントのこと言ったら今が壊れるんじゃないかって怯えてるんだから。」

俺は、転生したこと・アテネという神に会ったこと・アテネから力をもらったこと・これからどのような事が起きるか知っていることを話した。

「そうなんだ。」

「受け入れられるのか？俺が聞かされたら頭がおかしいって思うぞ？」

「まあ、あつくん昔から他の人とは違ってたしありうるかなあ〜って。」

「そう。」

「でこの子なんて言うの？」

「「CR」ってかいて」ア。」

それから、それぞれの機体の自慢やどれだけ心血を注いだとか話していた。

臆病者と愚か者（後書き）

とりあえずまだ日本を出ません。

お別れ会・送別会・旅立ち会・・・どれが正しいのでしょうか？

個人的に旅立ち会はない・・・とおもうのですが・・・うーん

R Y U様から指摘を受け

一樣 一応に変更しました。

ドイツへ

東に「CR」とGNDドライブを預け、東に以下の事を約束してもらった。

- 1つ目、GNDドライブを壊さないこと。
- 2つ目、GNDドライブは俺の返して欲しい時に返してもらおうこと。
- 3つ目、GNDドライブは作ってもいいが悪用はしないこと。
- 4つ目、GNDドライブ（複製Ver）はだれにも渡さないこと、
するとしても俺に一声入れ許可しなければ渡さないこと。
- 5つ目、俺の本当のことはだれにも話さない。

- 1・2・3はまず預けているだけなのであげただけではない。
- 4は下手に亡国機業ファントム・タスクにでも回ったら面倒だ。
- 5は目をつけられるのが嫌なだけだ。

で、東は承諾してくれた。ホントいい友達である。

「あっくんのドイツへの出発を熟してかんぱい！」

「熟してどうする。」

ともあれ送別会が始めた。といっても参加者は俺と織斑・篠ノ之兄弟だけである。人数が多くても暑苦しいだけだな。

「プレゼントたあ〜いむ。」

「「「わー（棒読み）」」」

「むう、みんなの反応がひどい。」

「お前が渡すものなんて爆弾・発信器以外に何がある？」

「そんなレッテル貼られてるの!?!」

「「「うん」「一夏・篝」」」

「だったら見るがいい篝さんの本気を！」

といって束が渡すのは

ISのコアでした。

「おい。」

「ん〜。なにかなあ。」

「ダメだろこれは。」

「えー。東さんの愛を受けとってくれないの〜。」

「東の愛は俺に面倒事しか運んでこないんだな。ってか故意なら殺していいですか？」

「どつぞ。」 篤

「殺つてしまえ。」 千冬

「みんなひどい！」

「」「」なにを当たり前な。「」「」俺・千冬・篤

東は部屋の片隅で体育座りをしている。さすがにいじめすぎたか。

「まっありがとさん。」

「えへへ。なんだかんだであっくんは嬉しいんだね。」

「マジやっついていいですか？うざい。」

「じゃ、アキに俺と箒からはこれ。」

「とって一夏がくれたのは、」

千冬に捨てられたエロ本でした。

「ありがと『メヂイ』」

人の体では絶対に出ない音が出た。そして俺の体はビクッビクッ
痙攣している。

「どうしてそれをプレゼントにしようと思った一夏？」

「なんかアキにいがものすごく泣いていたから大切なものなのかな？って。」

「なぜ持っている一夏。」

「え？友達にくれって言ったらくれた。」

「その友達はどこのごいつだ？」

「同じクラスの川田。」

「そうか。箒はどうして渡そうと思った？」

「一夏が任せろっていつから・・・」

箒は顔を赤くしながら言った。

「まあいい。」

と行って、刀とエロ本を持ってどこかへ行ってしまった。

殺しはしないよな？さすがに。

出発日

織斑・篠ノ之兄弟が見送りに来てくれた。

なんでも千冬がプレゼントを渡しそびれたらしく（ちなみに川田ってやつはいい加減だった性格が人が変わったように真人間になったという。）それを渡しに来たらしい。

で、いつまでたっても渡す気配がない。

「また来てくれよ。アキにい。」一夏

「アキさんまたです。」篝

「またねえ。あつくん。」東

「……………」千冬

と別れの言葉を言わない千冬さん。

なんやら東がちびっこ二人を連れて先に帰っているが……。

「おいアキラ。」

「なに？」

と顔を千冬に向けたとき

『ちゅっ』

と音が

え？

目の前には千冬の顔、
距離はゼロ距離。

え？

俺の思考が回復する間もなく

『バチッ!』

ビンタをくらった。

「次に会うときはお前の心をもらう!」と言い残し走り去る。

いつぞやの束より速いと思う。

それから飛行機に乗りドイツに向かったが、乗っている間そのことが頭から離れなかった。

生身 VS IS

現在、俺ドイツでISつくってる。

父が「職場体験してみないか？」といわれ俺は「働く気なんてさらさらない！」と意気揚々にいったら

・・・・・・・・・・・・・・・・母が後ろからスタンガンで気絶され強制連行。

内の母上も暴力的だな。悲しいよ。

で、研究所に連れてこられISの開発を手伝わされたわけだ。

ちょっと待て。

「ISって国家機密だよな？いいのかよ。」って両親に聞いたら

「え？しゃべらなきゃいいんじゃない？」って適当だなおい。

で、ドイツの第一世代を今作っているわけだ。

黒色の装甲に、爪が長い凶悪な腕、太くスラスタを内蔵した長い脚。

原作であった第三世代の大型レールカノンではなく背後の翼（PI C発生機？だったかな）もない

とりあえず 飛べるようにしようという事で開発を進めている段階だった。

で、俺がへまをしてしまった。つい「ここをこうすればいいんじゃない？」って頭に思った設計を言っってしまった、それが評価され現在IS第？研究所に務めることになってしまった。

ちなみに第？研究所はIS本体の開発

第？研究所はISの能力開発（ちなみに両親が働いているのはここ）

第？研究所は武装開発

現在俺は昼寝や無断欠勤をしながら働いている。それはだめだろうと思う人がいるかもしれないが、心配ないみんなそうしてるんだ。

ここの研究員は主任以外ほとんど顔を見ない。というのも大体の武装は決まっているためやることがないのだ。で、みんなはISが作られる前の研究をしているというわけだ。

俺の現在やっていることと言えば「GN-XXXラジエル」と「GNR-000セイファ」を仕上げている。また、「アストレア」「サダルスード」「アブルホール」「プルトーン」はすでにFに改良してある。原作より改造されているが。

頭をヘルメットにすると息苦しいし締め付けられている気がするので、顔を見せないバイザーは取り外し可能・頭の上のコード類・装甲は撤去。

そのためアストレアを例にすると横の装甲とブーメラン形の角、角の碧の額のが付いているだけだ。

他の機体もそのようにしてある。

また、「アブルホール」は機首の下の方にビームライフルを内蔵してある。そして、腕の方は胴体と翼の間のスラスタの所に腕を収納している。

束に貰ったコアを機体に入れることを考えたが、4体もの機体と並列稼働ができないため機体を量子化して倉庫代わりにしてある。(コアも作っているが時間がかかっている。)

そして、サポートがあるとうれしいので独立支援AI『エイダ』・作業用メカ『ハロ』を作成。

『ハロ』には原作で出てきたように整備用カレルに乗り整備を『エイダ』には株の管理や世界の情勢を調べてもらっている。

『ほとんど完成してきましたね。』

「まあ、時間と資金があればできるさ。」

『進行スピードと資金量が異常ですがね。』

「ほんとお前が株の管理やらしてくれて助かった。」

だって口座見たら桁が10近くあったんだぜ？経済独占してないか？

『大丈夫だ、問題ない。』

「そのネタよく使うな。」

『織斑千冬のおかげで日本の株が急上昇したのでのってみたらすごいことになりました。』

「その辺は感謝感謝。」

『で、今日はどうしますか？ シミュレーター・昼寝・アニメ鑑賞・ないとは思いますが研究所へ行きますか？』

「研究所に行く。」

『・・・・・・・・・・・・・・・・』

そんなに驚きですか。

自転車で第？研究所まできて主任のところまで行く。

「おっひさ〜。」

「あつ、アキラくん今日は来てくれたんだ。」

この人が俺の主任フェイラ・フォーリンさんです。

さらさらとした絹の様な金色の長髪にルビーの様な赤い瞳、すりとした手足、胸も結構……ゲフンゲフン。

美人さんでやさしい、生まれてきてよかったってさえ思える。ほんどどつかの誰かとは大違い。

「前に貰った武装の設計データだけど、ハイレーザーライフル「W H O 4 H L - K R S W」だっけ？ 重くて取り回しがつらいんだって、改良してくれって要望が来たのまた改良してね。今から演習所でダブルマシンガンの実験するらしいんだけど見に行く？」

「行く。」

『せいぜい暇だからでしょうに。』

「あはは。エイダちゃんもデータ取りお願いできますか？」

『了解。』

ちなみにさっきの武装の形状はアーマードコアで出てきたカラサワと

コブキヤのダブルマシンガンだ。

で、演習所についてフェイラさんは書類を抱えてどこかへ行つてしまふ。俺の目の前にISが銃を構えている……。俺もIS用の武装、カラサワを右腕にダブルマシンガン（連結状態）を左腕に構えている。

演習場にフェイラさんを置いて入って行つたとき、隊員たちが俺を見るなり「帰れ！」やら「あんたの作る武器は使いづらい！」やら「とつとと死ね童貞野郎！」やら「……！！」自主規制）「ものすげえブーイング。

……俺何かしたっけ？

『あなたが根暗な性格しているのとチビなのと貧弱なのが最大の原因でしょう。そして私も死ねばいいと思います。』

味方からの攻撃！ 俺の心に17のダメージ！！ え？ 結構小さい？ だって気にしてねえモン。

「これが木村夫妻のご子息かと思うと絶望します。木村夫妻もこのような人になつたのでしょうか？」

隊員の言つた一言が俺の頭を黒いマグマのように沸騰させる。

「おい。今家族馬鹿にした奴出てこい。殺してやるよ。」どすのきいた声と殺気を100%追加して言った。

「別に俺を侮辱しようが殴りつけようがどうでもいいが、俺の家族をバカにするな。」

「……………いいでしょう。私に勝てたら先ほどの言葉撤回します。」

という事で決闘をすることになりましたー。

うん。生身にESは卑怯だと思うんだ。フェイラさんはおどおどと、あっちゃこっちゃ動きまわってるし、周りの隊員たちは先ほどと同じようにブーイング飛ばしている。

自分の短絡さを嫌だと思っ反面これでいいとも思う。

俺にだって大切な人がいるんだから。

「では始めましょうか。」

と行ってISが突っ込んでくる。

俺はダブルマシンガンを発砲するがシールドエネルギーと装甲によって弾かれ相手はプラズマ手刀を呼び出し切りかかってくる。(通常の出力でやったら痛いでは済まないので落としている。)

俺は身をよじって躲しつづく攻撃も躲しつつ至近距離からカラサワをぶっ放す。

「くっ。」

相手はエネルギー弾の被弾によって後ろに飛ばされ、その隙に両手撃ちで相手のシールドエネルギーを削るだけ削る。

「ござかしい！」

俺を左側を回り込むように動きそれに合わせ俺はダブルマシンガンを撃ちつづけている。

そして、弾切れを狙ってか切りかかってくる。

プラズマ手刀を目先すれすれで躲しダブルマシンガンで

殴った。

どっちにしろ弾は連結した後ろの方に半分残ってるし前の方もう撃ち尽くした。

前の方のマシガンが壊れようがどうでもいいという思考で、相
手の手刀を躲しつつ殴る。

「このっ！」

と行って切りかかってくるが千冬の刀に比べればどうという事は
ない。また躲して殴る。そしてついに耐久が限界にきて前のマシン
ガンが壊れるが、そんなのお構いなしにマシンガンを乱射。

さすがにシールドエネルギーがヤバいのか後ろに引き、レールカ
ノンを呼び出す。

(・・・おい。さすがにそれはないだろ。)

右腕のカラサワで破壊しようとするがこの距離では避けられてし
まう。

そして、レールカノンの発砲で俺の前方の地面がえぐられ衝撃で
吹き飛んでしまい立ち上がるうとするがカラサワを踏みつけられ俺
にも手が伸びてきた。

カラサワから手を離し相手の顔を一発殴る。

そこで俺が押さえつけられ試合終了。

(殺すまではいかなかったが殴れたんだからいつか。)

その試合の後で、フェイラさんからO・H A・N A・S H Iが来てしまった。うん、千冬に匹敵していたと思う。

「今後こういう事がないように！！ いい！？」

「・・・はい。」

フェイラさんから解放され、研究所の出口の所にさっきの試合でISに乗っていた人がいた。

「先ほどの事を詫びに来ました。」

「？」

「私は木村夫妻に絶望の中を救われて尊敬していました。その息子がお抜けしていると聞かれ憤っております。あの人たちのご息ならもつと立派に強いだろうと思いましたが。しかしお抜けしているあなたを見てあの人たちを侮辱してしまいました。」

「・・・」

「本当に申し訳ありません。」

「別にいいですが今度からはやめてください。」

「はい。」

早々に会話を切り上げ、それから俺は家に帰るため自転車のところに行った。

(そういえば名前なんだっけ?)

試合で戦った相手がクラリッサ・ハーフだったのは後日知ることになる。

生身 VS IS（後書き）

うん。生身でISと戦うとか、やってしまった。

だが後悔はしていない！！

ちまみにフェイラさんは

リリカルなのはのフェイトさんのイメージで。

アブルホールの腕の指摘を受けたので追加しました。

テロ事件発生（前書き）

今回、ガンダム00の 8話 無差別報復をベースにしています。

テロ事件発生

最近、女尊男卑の風潮が強まってきた。

それに対して男尊女卑の考え方の奴らがまだいるらしい。

まあ、俺にはどうでもいいことだが。

で、俺は今軍の訓練施設でクラリツサ・ハーフの監視下の元、射撃訓練をしている。

なぜ、訓練なんてしているかというところクラリツサと両親がISとあそこまで戦えるのなら訓練してもっと強くなれとか言ったのだ。

無論反論したが無駄でした。

母上による背後からのスタンガン攻撃で黙らせられ連行ってな感じ。もうやだこの母上。

射撃訓練以外にも接近戦闘訓練、30kmものフルマラソン・筋力トレーニングなどの基礎体力の向上など、もう1卒の兵士並みにやった。

マイエンジェル フェイラさん!!

「アキラくん、変に笑っていて顔が怖いよ?」

「いえ、フェイラさんの作った弁当が楽しみで楽しみで。」

「あ…うん…。(お弁当でそんなにはしゃぐなんて、まだまだ子供なんだね。)」

フェイラさん、微笑ましい目線でくすくす笑ってるけど、どうしたの?

『一生かなわない恋ですね。』

エイダがなんか言った気がしたけど気にない。このポテトパンケーキうまあー。

弁当食べた後は、フェイラさんと一緒に研究室に行き書類の整理をしていた。

といっても少なかったため速くかたずけてフェイラさんと買い出しに出ることにした。

これって、デート?

という淡い期待は早々に砕かれた。

フェイラさんの買う量が半端じゃなく、出かける前に行った「すぐく買っけど荷物持ちお願いできる？」って言ったけどこんなに買うとは思わなかった。

両腕は腕に荷物を10袋ぐらい通してもう持てない。さらに袋にはこれでもかというほどにパンパンに物を詰められている。さらにいうならもう3時間以上歩き続けているのだ。

「アキラくん、大丈夫？」

「もうそろそろやばいかも。」

ほんと強がれない。・・・あれ？　ものすごく鍛えてるはずなんだけどな？

「じゃ、ちょっと休憩しようか。」

といって近くのベンチに座ろうとしたその時、何かが光った。

光ったのは俺の50mくらい離れたバスだ。

爆発だと分かったが、爆風に煽られながらフェイラさんの前に立ち必死にかばいながら倒れる。

水色だったバスは赤々と炎をあげている。その周辺には大小の瓦礫と共に数人が倒れていた。

「……アツ、アキラくん……だっだいじょうぶ……？」

「……だ、大丈夫……」

先ほどとは違う言葉を言っていた俺も、同じことを言ったフェイラさんも声が震えていた。

この時、各国の都市で7ヶ所同時にテロが起こった。

翌日の朝、10時に千冬に電話をかけていた。あつちでは18時ぐらいだっけ。

「そっちは大丈夫か？」

『ああ。東京でテロがあったが一夏も私も無事だ。』

「篤ちゃんは保護プログラムで大丈夫か？」

『日本の警備体制もそこまで緩くないと思いたいな。』

「そう。でも今後もあるかもしれんから気をつけてな。」

『アキラが気遣うなんてまたテロが起こるかもしれないな。』

「・・・冗談じゃねえなおい。」

ほんと冗談じゃねえよ。バスがもう少し近ければ巻き込まれていたらんだから。

『悪い、ではまたな。(こついつとき以外にも電話をかけてくればいいのだが…)』

「ああ、じゃ、また。」

最後の方小声で何か聞こえた気がするが無視。

「エイダ。何かわかったか？」

『確定情報が二つ。まず今回のテロの首謀者は自然回顧主義組織「ラ・イデンダ」と判明。また拠点が幾らか判明。』

「すげえなおい。資金の流れや世界情勢が分かっているからって・・・」

『で、どうするのですか？』

「クラリツサさんに報告しておくだけにしよう。プロが対応した方がいいし下手に刺激してテロを激化にする必要もないだろ。」

『せっかくつくった機体が無駄になりますね。』

「まあ、テスト機みたいなものだからなISの第2世代もガンダ

ム第2世代も。実戦で危ない橋渡る必要もない……いざって時まではだけどな……」

『そのいざって時のために機体を整備しときます。』

「追加装備の制圧用スタンガンソードとスタングレネード弾、拘束用ロープはどうなっている？」

『新技術を使っているわけでもないの、もう完成してあります。』

『

「すまないな。」

『それが私の存在理由です。』

で、クラリツサさんに報告したのだが俺の得た情報など上層部にあてにされず、いまだテロが続いている。

というわけで機体テスト込みの武力介入に移行する。

武装拠点（テロに使われている爆薬、銃器）は3ヶ所、マーシャル諸島・南米の山間部・大西洋を航行している武装艦。

海に落ちた時のために酸素マスクを一応インストールしておく。
(原作道理にならなきゃいいんだがな。)

人気のいないところでISもどき

ガンダムを展開する。

ステレス機に足をはやした様な、翼のところにハンドミサイル・
脚部にはテイルユニットを装備した暗闇の様な黒にところどころに
橙色を塗装された機体。

「「アブルホール」目標へ飛翔する。」

マーシャル諸島の武装拠点に到着。夜であることを利用して襲撃
する。

翼についているハンドミサイルとテイルユニットのミサイルで武
装倉庫を破壊する。

そして、すぐさまスタングレード弾と睡眠弾を投下して武装
勢力を無力化する。

で、拘束用ロープでこれでもかという程巻き、ついでに武装も解

除（というか破壊）してからその場から去る。

時間は5分にも満たない。奇襲という事もあって相手からの抵抗がほとんどなかったからこんなにも早かったのだろう。

「目標達成、次の目標に向かう。」

南米の山間部上空に到着して「アブルホール」から全身から夕陽の緋を被ったような「アストレア」に変え両手にNGNバズーカを装備。弾の種類は煙幕弾。

ついでにクラビカルアンテナを外してGNランチャーを装備。

その状態で石の建造物に砲撃。その後GNランチャー・右手のNGNバズーカを量子化して戻し、スタンガンソード（二本の円柱の付いた剣）を右腕に・GNシールドを左腕に装備する。

今回建造物の中に爆薬・武装があるため内部を制圧しなければならぬ。
らない。

さっきの攻撃で破損した壁から侵入する。

煙幕弾で姿を隠しながら右腕のスタンガンで相手を気絶させていく。あてた相手がものすごい痙攣を起こしているが……面白くて仕方がないですねど（笑）。

マシンガン・バズーカなんかで相手は抵抗してくるが、ガンダム

の装甲には傷一つ付かないさらにシールドも張っているため衝撃も少ない。

逃げようとしている奴がいるがNGNバズーカの煙幕弾を当て相手を倒しそこからの煙幕から近くにいる奴らも気絶させていく。

どうやら今逃げようとしている奴らで最後なので、拘束し・武装を破壊して最後の目標に向かう。

また「アブルホール」で移動してから「アストレア」に変えプロトGNソード・GNシールドを装備し戦闘艦に突進する。

弾膜を張ってきているが小刻みに左右上下に動いているので当たらない。

そのまま、側面を切り上に上昇して急降下。戦艦の中央に突撃するように着地して砲台を切り続ける。

砲台を破壊し終えて立ち止まったその時、『下から熱源接近』

下から延びてくるのは二つの鉄の蟹の様なハサミ。

そのハサミに両足を拘束され海に引きずり落とされる。

海の中で見たのは武装された海中探索機であった。

ハサミは足を切断しようとしているがガンダムには効かない。そのうざったいハサミをプロトGNソードで切り裂く。相手は後ろに下がって魚雷を撃ってくる。

(・・・そんなもの・・・)

魚雷がGNシールドに当たり大量の泡が発生される。

その中から海の藍とは対比の緋の機体が現れる。

そして、無慈悲にプロトGNソードを掲げ相手に振りかざす。

一応、パイロットは爆発する前に引きずり出し拘束する。

死人とか出たら後味悪いからな。

その二日後くらいに、各国の軍が動き始め鎮圧された武装拠点で武装員を拘束したらしい。

武装員は「あれはお前らのISではないのか!？」とか「あれは・・・悪魔だ・・・」とか言っていたらしいしく、世間がそれを『正

体不明 I S 現る』やら『正義の味方か？悪魔か？』とか騒がれてい
たが 3 カ月もすればその噂は氷が解けるように消えていった。

テロ事件発生 (後書き)

さすがに無茶があつたかな・・・？

弟子

テロリストを無力化したISは正体不明・確認不能なため「亡霊」と名づけられ各国の諜報機関が捜査に乗り出したが発見できなかった。(まあ、早々発見できるわけねえだろ？ こっちは細心の注意払っているんだぜ？)

あのテロ事件から4ヶ月、女尊男卑はさらに加速し一部の女性は男性を奴隷とさえ思っやつが出てきた。まあ、俺はそんな奴イヤホんで音楽聴きながら無視しているが。

現在第三世代の制作段階だがそれよりも前に、機動船艦「ナデシコ」とかつくって宇宙にあげ木星に向かわせていたりしていた。

GNドライブは5つしかないためもし破壊された場合後がないため、製造できる木星に行ける技術とこの世界でGNドライブが製造可能かを調べるために10個作れるぐらいの素材と大量の「ハロ」と作業用カレルを乗せて木星に飛ばしたやつた。

気づかれるとまずいので「ナデシコ」には光学迷彩を装備して大気圏を離脱してもらった。

今日はフェイラさんに訓練所に呼び出された。フェイラさんの呼び出しなら拒否せず行くぜ！ 気分的に光の速度で！！

ん？ フェイラさんが呼び出すとすれば研究所の方じゃね？ と
気づいてしまったがもう入り口なので扉を開け入る。

ん？ クラリツサと同じく眼帯をつけた少女がいる。

銀の腰にまで伸ばした髪、俺とは少し色味が違う赤い眼をしているが、俺の眼は眠たく疲れた様な感じがするのに対し彼女の眼は冷たく鋭い感じを受けてしまう。

(まさか・・・)

と思っていると、クラリツサが俺を倒して頭を踏みつけてくる。

「ようやく来ましたかウスノ口。」

「おはよう。そして足どけろ。」

「・・・こついえは男は喜ぶと書いてあったのは嘘なのでしょうか？」

一部の奴らにはご褒美だと思っぜ。

「で？ なんて呼んだのフェイラさん。」

「ちよつと頼みごとがありました。」

「なぜクラリツサが答えるし。」

「私がアキラの番号を知らないの、フェイラさんに頼みました。」

「

だろうと思ったよ。

「実は鍛えてほしいのです、このラウラ・ボーデヴィッツを。」

「やだ。」

『面倒だからですね。』

「当たり前だろうが。」

「そこを何とか。」

「クラリツサが教えればいいですが。」

なぜ原作キャラと関係をつくらなきゃならん。

「転勤になりました。」

「はあ？ どこに？」

「黒ウサギ部隊です。」

「……なめてんのかその部隊名……」

原作でもあったけどさ。

「アキラくん、黒ウサギ通称であって正式名は「シュヴァルツェア・ツヴァイク」だよ。」

「黒い2番目？」
シュヴァルツェア・ツヴァイク

『黒い杖です。馬鹿ですか？』

「聞き間違えただけ、俺は日本人だ。」

ガンダムスローネとかも作るのかな？

「貴様が生身でISと戦闘したというのは？ とてもそうは見えないな。」

「そうだろ？ 俺みたいなやつの指導とかあんたもつけて『手は向かれましたが本当ですよ』……。」

エイダアアアアアアアア

「まあ無駄だとは思って受けてみよう。」

俺は面倒事に巻き込まれつつあるようだ。

で、基礎訓練と射撃訓練は一緒にやり・ISの動かし方・基本知識のアドバイスをしていく。

最初は俺の教え方が悪かったがだんだんと分かりやすく教えられるようになったと思う。

これも「経験値急増蓄積」のおかげなんだろうドイツ語も3日で話せるようになったし。

ISの動かし方では模擬戦をすることで身につけようとする。俺がハリセンを持ちラウラは出力を落としたプラズマブレードで試合をする。

最初のころは蠅が止まるような動きだったので素振りイメージ訓練を優先した。

だんだんと速く動けるようになってきたので俺にあてるように攻撃してくるが、何度も千冬の剣を避けているので当たらない。

そして、普段の訓練とほぼ同じ速度になってきたときはプラズマブレードを避けた後、ハリセンで横腹や足首などを叩いてやりより実践的な近接戦闘をしていた。

まあ、7カ月ぐらいしていれば代表候補制の下ぐらいにはなっ

きたのではないだろうか？

そんなラウラが生身の俺と模擬選をするとどうなるかということ

ハリセンを横に薙ぎ払うがラウラはISを下がらせ簡単に避けてしまう。

「チッ」

そして、前進しながらブレードを振りおろし切り上げ、また斜めに切ってくるが俺は数ミリ先で避け続ける。

反撃しようとハリセンを振り下ろすが踊る様に回転し避け、そのまま横に切ってくる。

倒れこむ様に前転して避けるが、そこはラウラの足元。

容赦なく蹴り上げられ飛ばされてしまう、そして地面にたたきつけられラウラが起きようとしていた俺の首元にブレードの刃先をちよつと手前に置く。

そこで模擬戦終了

もうラウラは生身の人間に後れをとることなぞないだろう。前のIS適正結果Bだったし。

「もう俺が教えることないんじゃないかね？」

「まあ、そうかもしれんが私はアキラに教えられたり模擬戦するのは嬉しいぞ。」

「最近では模擬戦でなぶられているようにしか見えない。」

「そんなことを言うなら最初ハリセンで叩きまくられた私は屈辱でしかなかったのだが。」

「いくらなんでも酷過ぎるという事で素振りに変更しただろうが。」

「・・・なんでアキラは私を侮蔑しないのだ？」

「・・・はい？」

「私は戦うためだけに生み出されたが『出来損ない』の烙印を押された。大抵の奴は嘲笑するか侮蔑するかのどちらかだ。なぜアキラはそういう事をしない？」

あーそういうえばそういう事クラリッサから聞いてたな。

「一言でいえば面倒。」

「は？」

「だってこれから教える相手と関係気まずくするの嫌だし？ 強

くなつたらなつたで報復されるのが嫌だからじゃね？」

「なぜ疑問形？　というよりそれだけか？」

「まあ、それ以外にも理由としては、戦う事だけがラウラの存在理由じゃねえだろ？」

「いや、私は戦うために生み出された存在だぞ。」

「最初は戦うための存在だとしても人っていうのはさ自分を変革させていくことができるんだぜ？」

まあ、変わる変わらないは本人の意思だがな。」

「……私も戦う以外の存在になれるのか？」

確か原作では一夏におとされるんだっただけ。

「なれるぞ。」

そんな話をしているうちにラウラの携帯が鳴る。

「上層部からの呼び出しだ。いってくる。」

「いってらー。」

ラウラは上の所に、俺は家に帰宅する。

それからラウラがクラリッサと同じシュヴァルツェア・ツヴァイクに移動になったのを後日知った。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7469y/>

ISに変革者・・・の怠け者

2011年12月18日10時02分発行